

## 第1編

---

---

# 事業概要報告 (平成22年度)

---

---

---

# 1. 事業の概要

---

## 1-1 参加大学名（設置者名）

- 順天堂大学大学院医学研究科及び医療看護学研究科

学校法人順天堂（東京都文京区本郷2丁目1番1号）

理事長 小川秀興（事業推進代表者）

- 新潟大学医歯学総合研究科

国立大学法人新潟大学（新潟県新潟市西区五十嵐二の町8050番地）

学長 下條文武

- 東京理科大学大学院薬学研究科

学校法人東京理科大学（東京都新宿区神楽坂1丁目3番地）

理事長 塚本桓世

- 明治薬科大学大学院薬学研究科

学校法人明治薬科大学（東京都清瀬市野塩2丁目522番1号）

理事長 住吉義通

- 立教大学大学院理学研究科

学校法人立教学院（東京都豊島区西池袋3丁目34番1号）

総長 大橋英五

## 1-2 プログラム名

文部科学省 平成19年度 「がんプロフェッショナル養成プラン」

## 1-3 事業名称

実践的・横断的がん生涯教育センターの創設

## 1-4 本事業の概要

平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」で選定された「実践的・横断的がん生涯教育センターの創設」は、順天堂大学「がん生涯教育センター」における「がん患者の視点」に立った「がん医療」を大学改革の実践の場とする取組である。この取り組みは「裾野の広い、且つ高い、品性」のある「がん医療」を目指し、大学の改革実践の「場」として「がん生涯教育センター」を創設し、順天堂大学附属6病院の3199の病床に加え、養成環境を充実させるため、新潟大学と「がん治療」において高い臨床能力養成と実績を持つ5医療機関と連携し、教育研究・診療環境を整備した。また、コメディカル養成については、順天堂大学のほか連携大学院（東京理科大学、明治薬科大学、立教大学）との協力を強化し、患者の視点に立った医療を、順天堂学是「仁」（人を慮る心、慈しむ心）に基づき、がん医療を担う医療人養成を「がん生涯教育センター」を拠点に行うことである。

## 1-5 養成コース

大学名	研究科等名	専攻名	コース名
順天堂大学	医学研究科	医学専攻	医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）
新潟大学	医歯学総合研究科	分子細胞医学専攻、生体機能調節医学専攻、地域疾病制御医学専攻	医師（放射線療法、化学療法）
順天堂大学	医療看護学研究科	看護学専攻	コメディカル（がん専門看護師）
明治薬科大学	薬学研究科	臨床薬学専攻	コメディカル（がん専門薬剤師）
東京理科大学	薬学研究科	薬学専攻	コメディカル（がん専門薬剤師）
順天堂大学	医学研究科	医学専攻	コメディカル（医学物理士）
立教大学	理学研究科	物理学専攻	コメディカル（医学物理士）
順天堂大学	医学研究科	医学専攻	インテンシブ（医師、医学物理士）
立教大学	理学研究科	物理学専攻	インテンシブ（医学物理士）

## 1-6 養成計画

本学大学院は、本プラン全体を統括し、専門医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）とコメディカル（がん専門看護師、医学物理士）の養成を担当する。また新潟大学は専門医師（放射線療法、化学療法）、東京理科大学大学院と明治薬科大学大学院はコメディカル（がん専門薬剤師）、立教大学大学院はコメディカル（医学物理士）をそれぞれ分担して養成する。

### ● 専門医師コース

専門医師コースは、日本がん治療認定医機構のがん治療認定医を取得するとともに、放射線療法・化学療法・緩和ケアの専門医師養成を行う。開講は、順天堂大学及び新潟大学において行う。臨床での養成に当っては、本学では本学附属病院群のほかに、癌研有明病院、東京都立駒込病院、静岡県立静岡がんセンターと連携している。新潟大学では同付属病院と新潟県立がんセンター新潟病院と連携している。

開講は平成20年度から。

### ● コメディカル・コース

コメディカル・コースでは、がん看護師、がん薬剤師、医学物理士を養成する。養成はがん看護師を本学大学院で、がん薬剤師を明治薬科大学大学院と東京理科大学大学院で、医学物理士を本学大学院と立教大学大学院の連携で行う。養成に当っては各専門資格取得のための学習ばかりではなく、チーム医療を学ぶ実践的な教育を整備している。

開講は平成20年度。

### ● インテンシブ・コース

インテンシブ・コースでは、専門医師と医学物理士のインテンシブ研修を行う。専門医師研修では、がん治療認定医取得を目的とした養成プログラムを本学大学院において行う。医学物理士については、臨床研修を本学大学院において、基礎物理の研修を立教大学大学院において行う。いずれのインテンシブ研修も実施する大学院の科目等履修生として学習する。

専門医師の開講は、平成19年10月。

医学物理士の開講は、平成20年度。

## 2. 本事業の目的・必要性

### 2-1 全体

本補助事業の全体の目的は、本学におけるがん医療の改善を図り、「がんプロフェッショナル養成プラン」の目的であるわが国における質の高いがん専門医等の養成に資するため、主として本学を核として全コースに共通科目を設定し、他の3大学及びがん拠点病院群と連携し、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持ち、かつ高い研究能力を持つがん専門医等、がんに特化した医療人材の養成を図ることである。

また、平成19年度からの初期事業をインテンシブ・コースとして実施し、専門医師養成における取組の充実・発展を図り、本取組を具体例として拡充することにより、「がん生涯教育センター」創設の目的である専門医師コースとコメディカル・コースの養成を開始し、実践的で横断的な体制をもって、高等教育機関におけるがん教育に関する教育研究・診療環境の強化を図ることが、本補助事業の目的である。

### 2-2 本年度

本補助事業の本年度の目的は、平成20年度から大学院に学生を受け入れ、基礎講義とコア実地修練として学内研修実習を展開した。本年度はコースカリキュラムの更なる充実と実質化を図るため、連携学外施設での臨床実習に大学院生を派遣し、各養成コースの実施体制を実行性のあるプログラムとして展開する。

コメディカル養成を担当している各連携大学院においては、自己点検を行い、養成プログラムの見直しと一層の強化を図る。特に薬学系大学院は、6年生への移行期のため大学院生の新規入学が見込めない。既登録者へより充実した薬剤師コースの提供を行うため、生物顕微鏡等設備を充実させ、がん病理診断に関する実習用備品を整備するものとした。

チーム医療合宿研修は、実施した2回について更に検討し、チーム医療の根幹である職種間連携プログラムの充実を図る。

それぞれの専門分野のレベル向上を目的としたインテンシブの各コースについては、コースの充実と、立教大学医学物理士コースで導入した履修証明制度への発展と、各連携大学設定コースを見直し一層の強化を図る。

本補助事業遂行のための教員養成等を継続して実施し、コース充実と強化を図るため、がん専門医師の雇用と医学物理士を雇用する。

大学院生のRA等の採用を継続実施し、がん専門の若手研究者育成事業を充実させる。

国内外のスピーカーによるシンポジウムの開催や「ニュースレター」やホームページを活用し、本補助事業の広報活動をより強化、充実させる。

本補助事業の活動報告をとりまとめ、本年度、外部評価委員による評価委員会を開催し、本年度の事業に対する改善等の助言等を得て、本採択プログラム最終年度へ向けての取組と今後の事業継続について検討する。

## 3. 本年度の本事業実施計画

### 3-1 本年度の本事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、次の事項を実施する。

- ① 4月 各連携大学院における大学院教育の実施
- ② 4月 教育職・事務職スタッフの雇用（新規・継続雇用）
- ③ 4月 若手研究者の雇用と研究奨励費の公募
- ④ 4月 国内外研修の公募
- ⑤ 4月 広報誌「ニューズレター」の発刊（4月、7月、11月、1月）
- ⑥ 4月 国内シンポジウムの開催
- ⑦ 6月 外部評価委員会の開催
- ⑧ 6月 前年度報告書の作成
- ⑨ 7月 医学物理士の海外養成派遣
- ⑩ 9月 連携5大学による合宿研修（授業科目「チーム医療」）開催
- ⑪ 9月 事業の取り組み更新とホームページのリニューアル
- ⑫ 10月 国内シンポジウムの開催
- ⑬ 11月 国際シンポジウムの開催
- ⑭ 1月 連携5大学拡大運営委員会の開催

### 3-2 23年度以降の実実施計画

- ① 事業継続を視野に入れ、当該プログラム拠点の「がん生涯教育センター」が、大学改革、特に大学院の横断的な教育体制の構築、教育の実質化、学位の取得とがん治療認定医の取得の両立等について、有効に機能するか常に見極めながら、センター事業の発展的運用を目指す。
- ② がん生涯教育センターが、社会や地域等における生涯教育の拠点として活動しているかを、活動（シンポジウム等）の実際的な参加者数や受講者からの声などを参考として、実効性のある活動が行えているかを評価しながら運用する。
- ③ がん生涯教育センターの事業計画によって育成されつつある専門人材が、チーム医療を具体的に実践できているかを教職員・学生による合宿等で評価し、その結果を養成プログラムに反映させ、プログラムの改善を目指す。
- ④ 主幹校附属病院群におけるがん治療センターの専門人材養成機能向上も組み込まれていることから、キャンサーボードをはじめとして、効果的に教育的機能が向上しているかを常時点検・評価しながら、研修施設としての整備を図る。
- ⑤ 外部評価委員会による評価を実施し、本取組の実質的な活動等を評価する。評価にあたり、チーム医療合宿で患者代表者に参加頂き、当該事業を評価頂き、患者側から、がん生涯教育センターをさらに発展させるために必要な視点等の助言や改善案の提言を受ける。

- ⑥ 教員の指導力向上をさらに図るため、がん関連の国内外の研究会等に若手教員を中心として派遣し、研鑽させる。現在、継続して実施しているファカルティ・ディベロップメント研修（チーム医療合宿）については、毎年開催し、学生の意見を数多く反映させた研修とする。
- ⑦ 学生からの声については、日常的に授業時の教員評価を行うが、学生生活等を含めた院生実態調査として、毎年1回実施する。これらの解析と評価については、主幹校運営委員会、連携5大学拡大運営委員会において学生の学修環境を把握し、必要のあるものは整備する。
- ⑧ がん生涯教育センターにおける各種活動を広報するため、ホームページやパンフレット、ニュースレター（年4回発行）を作成し、また教育研究・診療に関する公開シンポジウム・公開講座等は、毎年1回以上開催する。また、本取組を広報するため、他研究機関主催のシンポジウムと共催し、地域等における子女教育等の社会的な広報活動も行う。またこれらの活動を取りまとめ、刊行物としてセンター活動報告書を公刊する。
- ⑨ 本プランとして、若手研究者育成に関する研究力向上の費用として、年間18,000千円を予定している。若手研究者の研究力を高めるため経費について予算化し、必要な援助等を継続し行う。なお、成果については成果報告書としてまとめ公表する。
- ⑩ 以上の計画に基づき、本プランの目標である質の高い医療の実践と研究成果から、学位の授与、資格試験等の取得、大学院改革、生涯教育活動の実践等々、拠点である「がん生涯教育センター」を中心とした実際的な活動を継続展開する。

---

## 4. 補助事業の内容

---

- ① 連携各大学院において、前年度見直しを行ったカリキュラムを実施し、新たに整備した教材や資料が効果的に利用されているかを確認する。また、がん専門医師、コメディカル、インテンシブの各コースを実施する。また関連教育病院の施設を利用しての実地修練についても随時学生を派遣する。
- ② がん専門医師、医学物理士の新規採用と継続雇用により、がん専門人材養成に関わる指導スタッフの拡充と事務業務の効率化を図る。
- ③ 大学院生を TA/RA として雇用し、研究マインドの強化と大学院生への経済的支援を実施する。また若手研究者を対象とした研究奨励費を学内公募し、がん研究の更なる充実と発展を期す。
- ④ 若手教員養成のため、国内外の研修参加を公募形式で実施する。
- ⑤ 当該事業広報のため、連携各大学のトピックスをニュースレターとして、年4回発刊する。
- ⑥ 国内シンポジウム（春季）を開催し、本事業の取り組みを公表・普及させる。連携各大学院、協力医療機関におけるがん人材養成の現状と今後について報告する。
- ⑦ 外部評価委員会を開催して、3年間の事業評価と今後を検討する。
- ⑧ 本取組の報告書を作成し、社会への成果報告ならびに外部評価委員会による第三者評価を行う。
- ⑨ 医学物理士養成のため、若手教員を米国ワシントン大学へ派遣し、専門的知識を習得させる。
- ⑩ 5連携大学院に在籍するがん関連履修大学院生等を対象に合宿研修を開催し、授業科目「チーム医療」を共同で学習する。
- ⑪ 本取組に関する広報をホームページ中心に行い、取組の更新とホームページの見直しを図る。
- ⑫ 国内シンポジウム（秋季）を開催し、本事業の取組を公表・普及させる。連携各大学院、協力医療機関におけるがん人材養成の現状と今後について報告する。
- ⑬ 国際シンポジウムを開催し、本取組のがん専門医師、コメディカルに関する国際的な通用性について公表・普及する。
- ⑭ 連携5大学拡大運営委員会を開催し、各事業の現状報告、改善点の洗い出しを図る。



## 5. 本事業から得られた具体的な成果

本年度の本事業計画を実施することにより、本事業から得られた具体的な成果は、以下のとおりである。

### 5-1 各連携大学院における大学院教育の実施

平成22年度、がん専門医師コースにおいては、順天堂大学では14名、新潟大学では2名が新たに登録した。がん専門看護師コースにおいては、順天堂大学で1名が登録し、がん専門薬剤師コースにおいては、薬学部が4年制から6年制への移行期により、大学の卒業生が出ないため、今年度の新規登録者は明治薬科大学、東京理科大学は共に0名となった。医学物理士コースにおいては、順天堂大学では2名、立教大学では4名が登録した。

インテンシブコースにおいては、順天堂大学専門医師コースに36名、医学物理コースに34名（順天堂31名、立教3名）の登録があった。各コースにおいて専門性の高い大学院教育を実施した。

### 5-2 教育職・事務職スタッフの雇用（新規・継続雇用）

教育職・事務職スタッフを充実させることで、専門性の高い教育研究支援が可能となり、雇用は事業運営に大きく寄与した。

### 5-3 若手研究者の雇用と研究奨励費の公募

大学院における若手研究者雇用（20名）は、将来がん専門分野における教育研究の指導者として対応できる人材養成のために有効となっている。また、今年度から授業評価を実施し、より若手研究者の意識向上へとつながった。

### 5-4 国内外研修の公募

海外研修及び国内研修の実施により、最新の医学、看護学、医療情報の収集が可能となり、同成果は、本取組みの教育研究指導に有効に活用された。

### 5-5 広報誌「ニュースレター」の発刊（4月、7月、11月、1月）

広報誌「ニュースレター」の発刊（5回）は、本取組みの活動内容を広く広報することとなり、事業成果を広く社会へ還元することが行えた。

### 5-6 国内シンポジウムの開催

国内シンポジウムにおける事業報告は、事業成果の社会還元と、同事業実施他拠点に対して本取組みの公表と普及につながった。

## 5-7 外部評価委員会の開催

講評の結果、様々な職種のコースが設定されていることが評価され、チーム医療を学ぶ場として有益であることや、放射線治療医、医学物理士が数多く育成されていることが評価された。

## 5-8 前年度報告書の作成

作成した事業報告書は、社会への成果報告、次年度事業の見直しを図るための自己点検資料及び外部評価を受審するための資料となった。

## 5-9 医学物理士の海外養成派遣

米国の医学物理士養成課程に教員を派遣し研修させることで、本取組みにおける医学物理士養成コースの教育研究体制の強化を図ることができた。

## 5-10 連携5大学による合宿研修（授業科目「チーム医療」）開催

授業科目「チーム医療」合宿研修の実施は、職種間連携の重要性を認識させるとともに、チーム医療の在り方を再認識させる機会となった。職種の異なる73名の参加は、本プログラムへの関心の高さの現れで、開催目標を十分に達成できた。

## 5-11 事業の取り組み更新とホームページのリニューアル

本取組みの広報はインターネットを介し行っている。このため見やすいホームページとし、学内外の多分野の研究者・学生に対し多種多様な情報提供と開講講義情報を提供することができ、多くの医療関係者に参加の機会を提供できた。

## 5-12 国内シンポジウムの開催

国内シンポジウムの開催での事業報告は、事業成果の社会還元と、同事業実施他拠点に対して本取組みの公表と普及につながった。

## 5-13 国際シンポジウムの開催

海外研究者からの事例報告と情報交換は、今後のがん教育及びがん研究への方向性を見直すのにより機会でもあり、本取組みに対する自己点検の場ともなった。

## 5-14 連携5大学拡大運営委員会の開催

各大学の実施状況から事業全体の問題点を確認し、連携大学での合同シンポジウムを検討するがんプロアカデミア世話人会を発足するなど、連携大学間の連携を更に強化できる体制を整えた。

## 6. 平成22年度設備備品費補足表

### 6-1 新潟大学

品名	数量	合計 金額 (円)	交付決定時点 での納入予定 時期	実際の 納入日	計画時点での 目的・用途	実際の用途及び 利用頻度 (利用頻度の実態が補助 事業の内容・実施計 画等と比較し整合性・ 妥当について具体的に 記述願います。)	新たに購入した理由、 又は当初購入予定の 設備備品を購入しな かった理由 (新たに購入した場合 においては、代替でき る既存物品の有無を必 ず記述して下さい。)
ビデオ カメラ SONY HDR- CX550VB	1式	154,875	当初予定 なし	平成22年 12月22日	本設備備品は、選定 事業におけるがんブ ロフェッショナル養 成コースの講義を撮 影・記録する。 記録した講義をイン ターネットで提供 し、学生がE-ラーニ ングできることを目 的とする。	本設備備品は、選定 事業におけるがんブ ロフェッショナル養 成コースの講義 (1コマ90分)の際 に使用している。 また、3月5～6日に 行われた「がんプロ」 胎内セミナーの際に も講演内容を録画し た。	本設備備品は、講義 を撮影・記録するた めのものであり、学 内に代替できる機器 は存在しなかったた め、購入したもので ある。
合計		154,875					

### 6-2 東京理科大学

財産の名称	仕様	数量	取得時の 価格	合計	取得年月日	文部科学省が別に定める 財産処分制限期間
生物顕微鏡 システム	・エクリプス 80i 三眼セット ・蛍光・微分干渉 セット ・顕微鏡用デジタル カメラ	1式	3,990,000	3,990,000	(納品日) 平成22年 7月13日 (支払日) 平成22年 11月22日	4年 (開発研究用のもの 試験又は測定機器、 計算機、撮影機及び 顕微鏡)
	合計	1	3,990,000	3,990,000		

## 7. 養成コース一覧

### 7-1 大学院コース

#### ● がん専門医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）

本コースは、学位のほか、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）を取得するとともに、日本放射線腫瘍学会認定医（日本放射線腫瘍学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、放射線治療専門医（日本医学放射線学会）の資格取得を目指す。また、緩和ケアに関する専門医師養成も行い、緩和ケア関連認定医等の制度が整備され次第、当該資格取得も予定する。

- 順天堂大学大学院 医学研究科
- 新潟大学大学院 医歯学総合研究科

#### ● がん専門看護師

本コースは、日本看護系大学協議会が規定制定しているがん看護の専門看護師教育課程に基づき実施する。がん看護のCNS認定カリキュラムを連携する協力病院での実地修練も含めた2年間の教育である。

- 順天堂大学大学院 医療看護学研究科（修士課程）

#### ● がん専門薬剤師

本コースは、修士コースと博士コースがある。修士コースの養成の対象は、主にごがん専門薬剤師資格申請のための基礎条件であるがん薬物療法認定薬剤師認定申請資格取得を目標とする社会人学生である。また、博士コースは、がん専門薬剤師認定申請に必要な資格取得を主としたカリキュラムである。

- 東京理科大学大学院 薬学研究科（修士課程）
- 明治薬科大学大学院 薬学研究科（博士課程前期課程）
- 明治薬科大学大学院 薬学研究科（博士課程後期課程）

#### ● 医学物理士

本コースは、米国認定レジデンスを修了した教員による米国標準の医学物理教育を行う。順天堂大学大学院と立教大学大学院との連携による修士・博士一貫教育で、基礎科学をメインとした医学と物理学とのコラボレーション教育が大きな特徴である。

- 順天堂大学大学院 医学研究科（博士課程）  
先端放射線治療・医学物理学講座
- 立教大学大学院 理学研究科（博士課程前期課程）

## 7-2 インテンシブ・コース

### ● インテンシブ（専門医師）コース

本コースは、各学会の認定医あるいは専門医を取得した医師を対象に、一定期間、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を修得するためのがん治療認定医（日本がん治療認定医機構）資格取得を目標としたコースである。

■ 順天堂大学大学院 医学研究科

### ● インテンシブ（医学物理士・臨床）コース

本コースは、すでに医学物理士認定を受けた方々を対象に、医学物理士の臨床業務に関する3～6カ月間の集中訓練を行う。本コースでも、米国認定レジデンスを修了した教員が米国標準の臨床研修指導を行う。新たな視点から医学物理士業務のレベルアップを図る。

■ 順天堂大学大学院 医学研究科（博士課程）

### ● インテンシブ（医学物理士・基礎）研修コース

本コースは、すでに医学物理士認定を受けている方々を対象に、医学物理士の臨床業務に必要な基礎科学に関する集中講義を行う。基礎科学的な知識を身につけることで、基礎科学の理論に基づく臨床判断を可能とし、マニュアル化、ルーチンワーク化された医学物理士業務を見直すきっかけを与えることが目的である。

■ 立教大学大学院 理学研究科

## 8. 養成実績

「がんプロフェッショナル養成プラン(平成19年度選定分)」養成実績

大学等名：順天堂大学

連携大学等名：明治薬科大学、東京理科大学、立教大学、新潟大学

	コース名	養成する 専門分野	大学名	養成（受入） 合計人数				取得が見込まれる 各学会認定資格等 (学会等名)	受入 開始 時期	
				H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 実績			
				63	0	23	24	16		
(1) 専門医師 養成コース	専門医師コース	放射線療法、 化学療法、 緩和ケア	順天堂 大学	31	0	10	7	14	がん治療認定医 (日本がん治療認定 医機構) 放射線治療専門医 (日本医学放射線学 会) がん薬物療法専門 医(日本臨床腫瘍学 会) 緩和医療専門医 (日本緩和医療学 会)	H20. 4
	腫瘍放射線医学	放射線療法	新潟大学	14	0	7	6	1	放射線治療専門医 (日本医学放射線学 会)	H20. 4
	呼吸器内科学又は 血液学(腫瘍内科学)	がん化学 療法	新潟大学	18	0	6	11	1	がん薬物療法専門 医(日本臨床腫瘍学 会)	H20. 4
(2) コメディカル 養成コース				53	0	23	23	7		
	コメディカル (がん看護師)コース	がん看護 専門看護師	順天堂 大学	7	0	4	2	1	がん看護専門看護 師(日本看護協会)	H20. 4
	コメディカル (がん薬剤師・明治薬 科大学修士)コース	がん専門 薬剤師	明治薬科 大学	28	0	12	16	0	がん専門薬剤師 (日本病院薬剤師 会)	H20. 4
	コメディカル (がん薬剤師・明治薬 科大学博士)コース	がん専門 薬剤師	明治薬科 大学	0	0	0	0	0	がん専門薬剤師 (日本病院薬剤師 会)	H20. 4
	コメディカル (がん薬剤師・東京理 科大学修士)コース	がん専門 薬剤師	東京理科 大学	5	0	2	3	0	がん専門薬剤師 (日本病院薬剤師 会)	H20. 4
	コメディカル (医学物理士)コース	医学物理士	順天堂 大学	6	0	4	0	2	医学物理士 (日本医学物理士認 定機構)	H20. 4
コメディカル (医学物理士)コース	医学物理士	立教大学	7	0	1	2	4	医学物理士 (日本医学物理士認 定機構)	H20. 4	